



TOKYO PARK GARDEN AWARD

@ 神代植物公園

コンテスト作品集

2023年9月 - 2024年11月



目 次

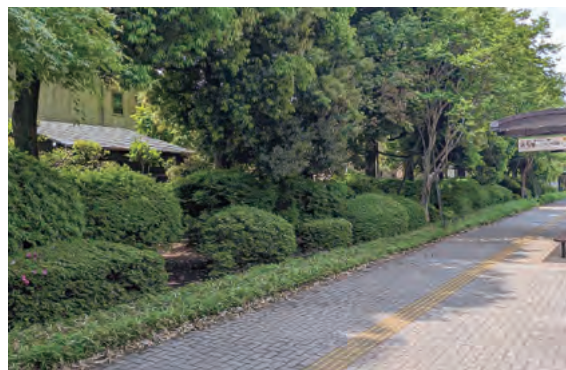
2	第2回 東京パークガーデンアワード 神代植物公園
4	コンテストのテーマとスケジュール
5	会場の概要
6	作庭時のルール
8	月々の変化と月々の植物 日向エリア
10	月々の変化と月々の植物 日陰エリア
12	審査基準と審査方法
13	第2回 東京パークガーデンアワード授賞式
14	エリアA Grasses and Leaves, sometimes Flowers ～草と葉のガーデン～
20	エリアB 花鳥風月 命巡る草はら
26	エリアC 草原は、やがて森へ還る。
32	エリアD feeling garden ～伝え感じる武蔵野の新しい風景づくり～
38	エリアE 武蔵野の“これから”の原風景

都立公園を花の魅力で彩る画期的コンテスト

「第2回 東京パークガーデンアワード 神代植物公園」

新しい発想を生かした花壇デザインを競うコンテスト「東京パークガーデンアワード」。東京・渋谷区「都立代々木公園」で開催された第1回に続き、第2回のコンテストは、都立神代植物公園（調布市深大寺）が舞台となりました。2023年9月中旬に書類審査により5名の入賞者が決定。12月からコンテストガーデンが一般公開され、日々成長する庭が道ゆく人々の目を楽しませました。

この「東京パークガーデンアワード」は、花壇デザインはもとより、植物や土壌の高度な知識が求められる、今までのものとは一線を画すガーデンコンテストです。書類審査を通過した5名には、制作費として300万円を上限に支給され、5つの異なるデザインの花壇が作られました。



コンテストガーデンができる以前の様子。常緑高木のシラカシの株元に、ツツジや笹が列植されていた緑一色の場所でした。



常緑高木のシラカシとサルスベリはそのままに、プロムナード(公道)を挟んで北側(日向)と南側(日陰)にそれぞれ5つの長方形の植栽エリアが設けられ、季節ごとに様々な花が咲き継ぎました。



花壇の背後に植わる木々が生き茂り、日差しが強く照る日が続いた7月の様子。作庭から8カ月が経過したコンテストガーデンの植物も順調に生育し、花の彩りが増え、立体感も増えています。

第2回コンテストのテーマは「武蔵野の“くさはら”」



今回コンテストの舞台となった東京都調布市を含む武蔵野エリアは、かつて見渡す限りの原野でした。ススキやハギなどが背を超えるまでに茂り、視界を遮る山や木もなく、野から出た月が野に沈む、月見の名所としても知られていました。挑戦者であるガーデナーたちは、その土地への理解を深めながら、現代的な解釈を加えることで、豊かな色彩を取り入れた新しい風景＝ガーデンを制作しました。

第1回に引き続き、“持続可能なロングライフ・ローメンテナンス”であることが「東京パークガーデンアワード」の外せないルールです。丈夫で長生きする宿根草を中心に選び、季節ごとの植え替えをせず、四季ごとに花の彩りがあることが求められました。今回のコンテストは、1名ごとに北側（日向）と南側（日陰）の花壇が与えられ、異なる環境下で2つのガーデンを制作したのも特徴でした。

▶ 1年かけて行われたコンテスト

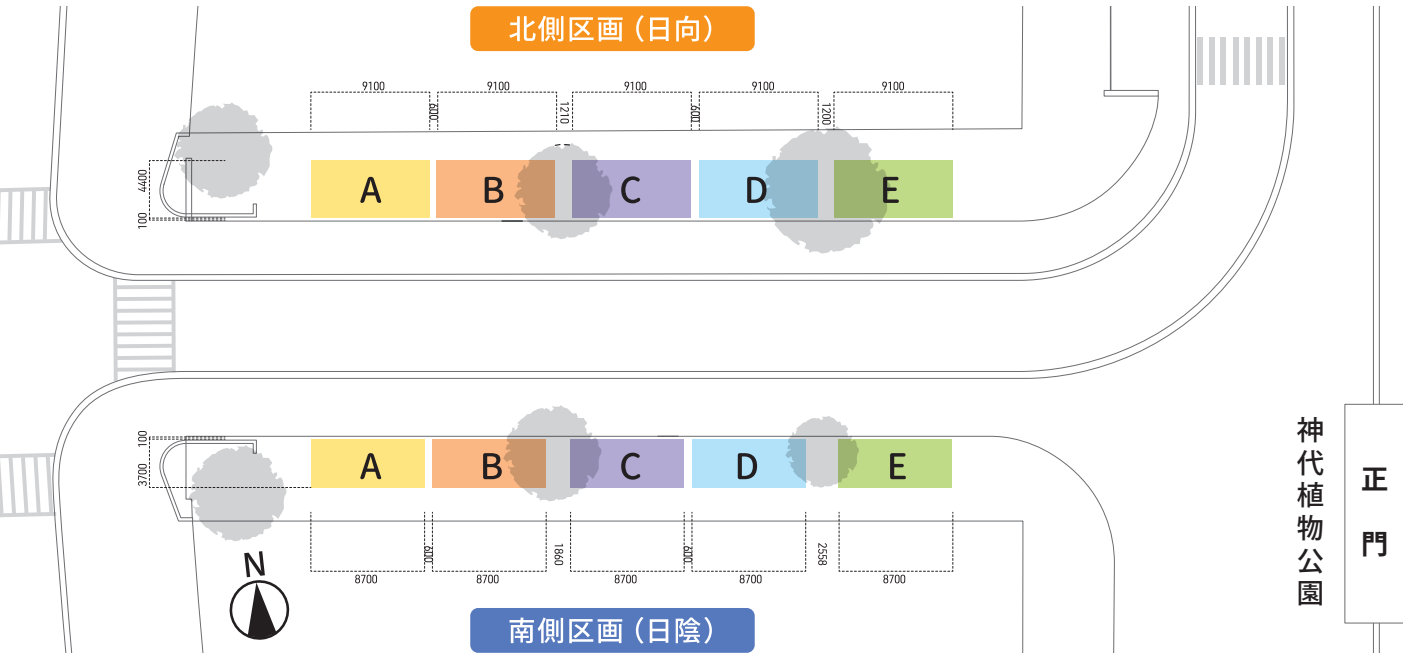
2023年8月下旬のエントリー募集後、9月中旬に5名の参加者が決定。同条件に整地された花壇が割り振られ、12月には1回目のガーデン制作が、2024年2月下旬には2回目の植え付けや手入れが行われました。4月から11月に3回の本審査が行われたあと、11月下旬に授賞式が行われました。

第2回 東京パークガーデンアワード 神代植物公園
最終審査までのスケジュール



5つのガーデンが競い合うコンテストの舞台、
都立神代植物公園正門手前プロムナード

コンテストガーデンが作られている敷地の平面図。A～Eの各面積は約70㎡。
どのエリアでガーデンを制作するかは、2023年11月に抽選により決定しました。



2023年12月に行われた1回目のガーデン制作に関わった皆さん。



都立神代植物公園正門手前プロムナード
[無料区域]（調布市深大寺）
住所：東京都調布市深大寺元町 5-31-10
京王線調布駅、JR中央線三鷹駅・吉祥寺駅からバス「神代植物公園前」下車すぐ。
車の場合は、中央自動車道調布ICから約10分弱。

植物公園正門入り口のバス停前に広がるコンテストガーデン。植物公園を訪れる人々に花と緑の豊かな彩りを楽しんでいただきました。

第2回コンテストにおける作庭時のルール



デザイン・植物について

- 国内市場で流通している植物のみ使用可能です（採取した植物は使用できません）。
- 主たる植物は多年生植物を使用してください。容易に制御が可能な、草本類に近い木本類は使用可能（全ての植物は高さ2m以内に限ります）。
- 構造物やガーデンオーナメント等の設置はできません。植物のみで構成してください。



メンテナンスについて

- 入賞者によるメンテナンスは、計画や予定を申請して行われました。
- 補植は可能。
- 最低限植物の状態を保つ週1回程度の灌水は事務局が行いました。
- 薬剤の散布はできません。自然素材の忌避剤の使用も不可とします。



土壌について

- 会場の基礎土壌は、事務局にて準備した土を使用。
- ガーデン制作時に施肥など土壌改良が可能。
- 事務局にて既存地盤の上に盛土（厚さ40cm）をし、植栽基盤厚を確保しました。
- 各コンテストガーデン区画は、土留め機能を有する部材で囲った状態で引き渡されました。

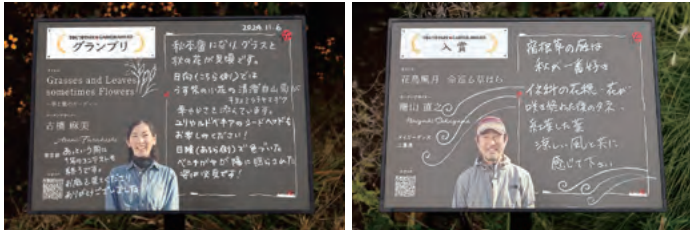


～第2回コンテストガーデンの工夫～



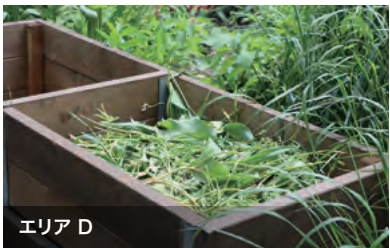
月々のメッセージボード

日向の花壇の左手前には、作庭者がメッセージを書き込める掲示板を設置。月々メッセージが書き換えられ、見学者にその時期の見どころをPRしました。



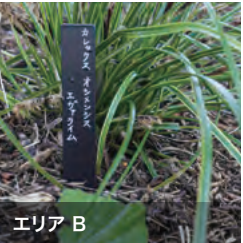
除去した草の処理法

各ガーデンでは、メンテナンス時に発生する枯草、剪定した枝葉、除草した草、花殻などを花壇内で処理できるような工夫が見られました。剪定枝を利用して野鳥の巣のように枠組みを作るバイオネスト（A・E）や、木製の枠を設けたコンポスト（D）、花壇のデザインの一部として溝を設け、マルチングしたり（B）溝や土中にすき込んだりするスタイル（C）など、三者三様。どのエリアも正面からは見えない後方や植物に隠れる場所に設置されました。



植物名がわかる“ネームプレート”を

庭のデザインの邪魔にならず、見学者にさりげなく植物の名前が伝わるよう、鉄製や木製のオリジナルプレートが設置されました。



月々の変化

日向エリア

12月の作庭後、1月には小さな芽吹きを確認。2月は最低気温-1℃の日もありながら、最高気温は25℃を記録し、芽吹きが一気に進行。5月には地面を隠すほど緑が茂り、立体感が出てきました。雨の少ない7月の梅雨を経て、長い猛暑の期間も花の彩りが途切れませんでした。秋の訪れが遅れたものの、10月にはグラス類が存在感を出し、11月には秋色へと移り変わりました。



12月



4月



5月



7月



8月



10月



11月

月々の植物

日向エリア

ロングライフ・ローメンテナンスに加え、「武蔵野の“くさはら”」も意識して選ばれた多数の植物は、月々、ボタンタッチをするように花壇を彩りました。なかには3カ月以上咲き続けた種類もありました。



3月 (A・Cエリア)
クロッカス'ホワイトウェルパープル'



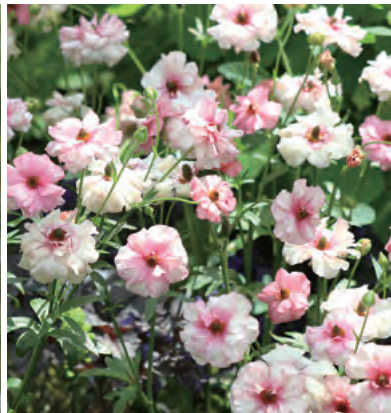
3月 (Eエリア)
原種チューリップ・トルケスタニカ



4月 (Bエリア)
ヒマラヤユキノシタ



5月 (Bエリア)
ダッチアイリス



5月 (Dエリア)
ラナンキュラス・ラックス



6月 (Cエリア)
エキナセア'プレーリーブレイズグリーン'



7月 (Dエリア)
ヘリオプシス'ブリーディングハーツ'



7月 (Eエリア)
フジアザミ



8月 (Bエリア)
オミナエシ



8月 (Cエリア)
パーノニア'クリニタ'



9月 (Aエリア)
ペニセタム'ルーメンゴールド'



9月 (Bエリア)
モミジアオイ



10月 (A・B・Dエリア)
アスター'ジンダイ'



11月 (Bエリア)
ミュレンベルギア・カビラリス



11月 (Cエリア)
ノコンギク'夕映え'

月々の変化

日陰エリア

常緑の植物が多く選ばれた日陰エリアは、2月は日向エリアよりも彩りが多く感じられました。気温が上がりはじめた5月、表土が隠れるほど植物が成長。背後に植わる高木が日を遮り、濃い影が落ちる期間が長く続きましたが、黄、緑、紫、赤、銅色、白い斑入りなどの幅広い葉色の組み合わせにより、どのエリアも日陰ならではの落ち着いた風景が楽しめました。



12月



4月



5月



7月



8月



10月



11月

月々の植物

日陰エリア

カラーリーフとして長期間活躍する植物に加え、日陰エリアでも開花する種類が上手に選ばれ、月々に彩りが添えられました。日向エリアに比べて落ち着いた色合いの花が多く見られました。



3月 (Aエリア)
バイモユリ



3月 (Eエリア)
フクジュソウ



4月 (Cエリア)
ゲラニウム'チュベロサム'



5月 (Dエリア)
アリウムパープルセンセーション'



5月 (Eエリア)
ミツバシモツケ



6月 (Aエリア)
カンパニュラ・ラプンクロイデス



7月 (Aエリア)
ヤマユリ'オーラタムゴールドバンド'



7月 (Eエリア)
ツルバギア



8月 (Aエリア)
リグラリア'ミッドナイトレディ'



8月 (Cエリア)
ワイルドオーツ



9月 (Cエリア)
ムラサキシキブ



9月 (Eエリア)
トウテイラン



10月 (Bエリア)
ホトトギス



11月 (Cエリア)
パーベナ・オフィシナリス'ハンプトン'



11月 (Dエリア)
シュウメイギク'クイーンシャーロット'

審査基準と審査方法

審査は4月、7月、11月の3回。4月は、春の見ごろを迎えた観賞性を評価する「ショーアップ審査」、7月は、梅雨を経て猛暑に向けた植栽と耐久性を評価する「サステナブル審査」、11月上旬には秋の見頃の鑑賞性と年間の管理状況を評価する「ファイナル審査」の3回の審査を経て、11月に受賞作品が決まりました。

審査基準

- ・公園の景観と調和していること
- ・公園利用者のためのデザインであること
- ・公園利用者が美しいと感じられること
- ・造園技術が高いこと
- ・四季の変化に対応した植物（宿根草など）選びができていていること
- ・「持続可能なガーデン」への配慮がなされていること（ロングライフ）
- ・メンテナンスがしやすいこと（ローメンテナンス）
- ・デザイナー独自の提案ができていていること
- ・総合評価

各審査は別途定める規定に従い、審査委員による採点と協議により行われました。

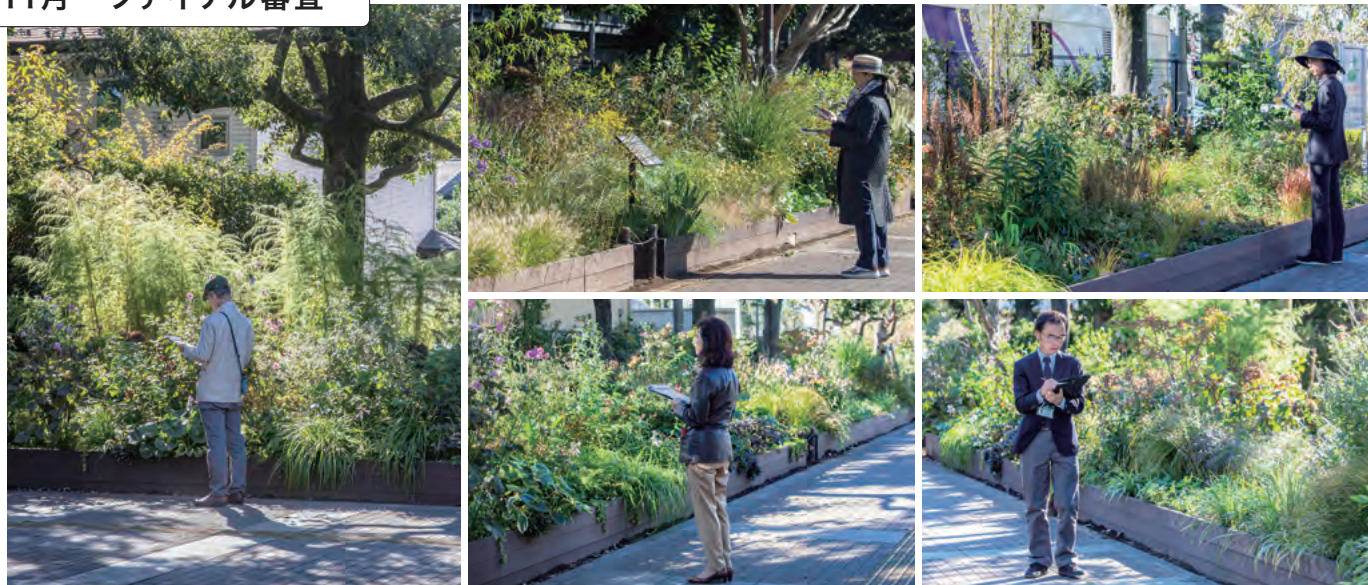
4月 ショーアップ審査



7月 サステナブル審査



11月 ファイナル審査



第2回 東京パークガーデンアワード授賞式

2023年12月のガーデンの施工から約1年が経過し、3回目の審査となる『ファイナル審査』が2024年11月7日に行われ、入賞5作品の中より「グランプリ」、「準グランプリ」、「審査員特別賞」が決定。2024年11月24日、東京都江東区にある清澄庭園大正記念館にて授賞式が行われました。式典では、賞状とクリスタルメダルの贈呈、6名の審査員による講評、受賞者5名による喜びのコメントが発表され、参列者より大きな拍手が贈られました。

審査員（敬称略）



福岡 孝則（ふくおか たかのり）
東京農業大学地域環境科学部 教授



正木 覚（まさき さとる）
環境デザイナー・まちなか緑化士養成講座 講師



吉谷 桂子（よしや けいこ）
ガーデンデザイナー



佐々木 珠（ささき たま）
東京都建設局公園緑地部長



植村 敦子（うえむら あつこ）
（公財）東京都公園協会 常務理事



松井 映樹（まつい てるき）
神代植物公園長



古橋麻美さん



吉野ひろきさん



メイガーデンズ 柵山直之さん



清水一史さん



藤井宏海さん



日向 7月



日陰 7月



Grasses and Leaves, sometimes Flowers

～草と葉のガーデン～

Garden Designer | 古橋麻美 (東京都)

作品のテーマ・創作意図

武蔵野のくさはらを表現するにあたり、オーナメンタルグラスとカラーリーフ、特徴的な葉を持つ植物をメインにしたガーデンをつくってみたいと思いました。「グラスガーデン」は馴染みが薄かったり、地味にとらえられたりすることもあるかと思いますが、宿根草に加え、球根植物も多用し華やかさをプラスすることで、多くの方に楽しんでいただけるガーデンを目指しています。



日向 7月

バーベナ・ボナリエンシスやミソハギなどの花が咲き、隣り合う植物が調和。

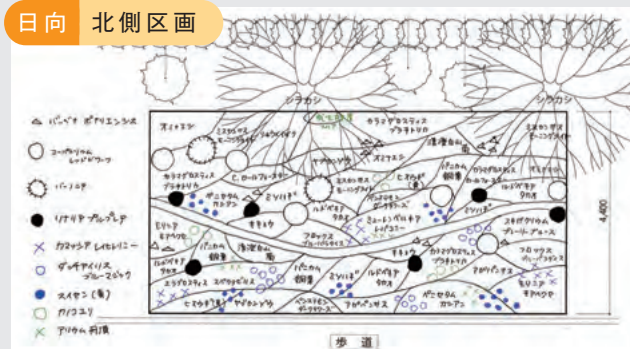


日陰 7月

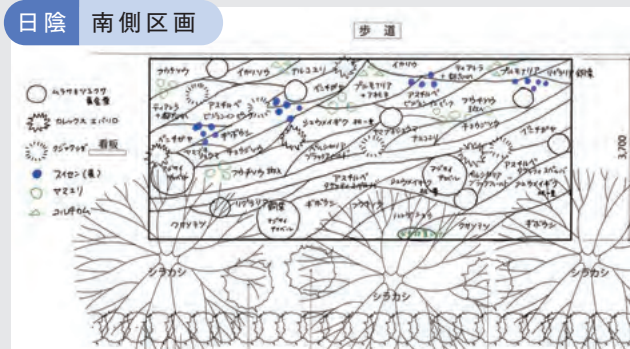
さまざまなカラーリーフが組み合わされた花壇の中で、大輪のヤマユリ'オーラタムゴールドバンド'が華やかに咲き、人目をひきました。

応募時に提出されたデザイン図面

日向 北側区画



日陰 南側区画



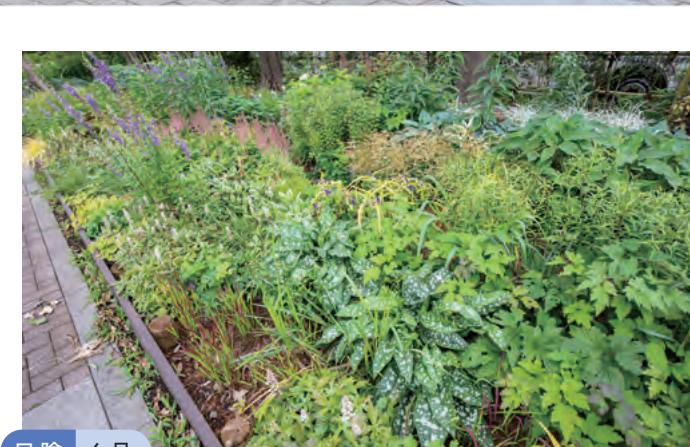
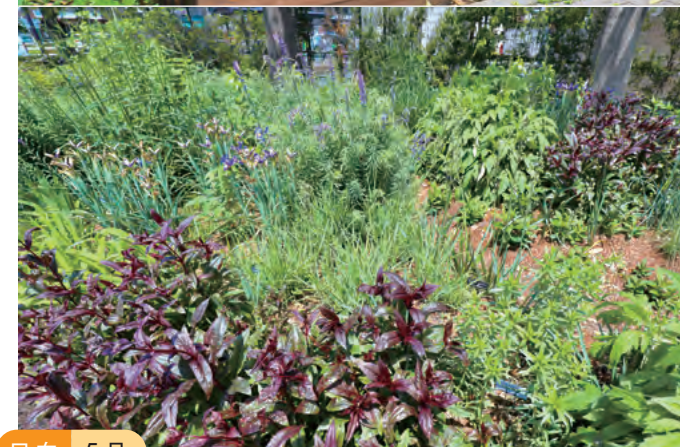
主な植物リスト

●日向 北側区画

グラス類：イトススキ/カラマダグロステリス/ベニセタム/パニカム など
 季節の花：アガスターシェ/フロックス/ルドベキア/アガパンサス など
 和の花：キキョウ/オミナエシ/フジバカマ類/ヤブカンゾウ/ヒオウギ など
 球根：ユリ類/スイセン/カマシヤ/ダッチアイリス/アリウム など

●日陰 南側区画

グラス・葉物類：フウチソウ/ペニチガヤ/ギボウシ類/クジャクシダ など
 季節の花：アスチルベ/ブルモナリア/ティアレラ/ムラサキツユクサ など
 和の花：イカリソウ/ヤマブキショウマ/シュウメイギク/チョウジソウ など
 球根：ユリ類/スイセン/コルチカム など





日向 8月



日陰 9月



日向 10月



日陰 10月



日向 11月



Garden Designer

古橋麻美 (東京都)

信州大学農学部森林科学科卒業。英国Writtle CollegeとSir Harold Hillier Gardensにて園芸・ガーデニングを3年間学ぶ。帰国後は造園会社にて商業施設などのガーデン管理や花壇デザインに従事。独立後もガーデナーとして庭のメンテナンスを中心に、植栽デザインと施工のほかワークショップも行う。

一年を振り返って

日向・日陰どちらの庭も、イメージ図に近い形で育ってくれたので、思い描いていたものから大幅に離れることなく庭づくりができたと思います。日向はグラス類が多めの植栽で、私なりに「華やかさのあるくさはら」をつくりました。切り戻して花数や株の大きさを調整することで、開花リレーをほぼ途切れることなく続けさせることができました。日陰の庭に関しては、アスチルベのシードヘッドがきれいに残ってくれたため、花がない時期でも見どころを提供でき、1年を通して比較的ローメンテナンスですみました。リーフやグラスで魅せるガーデンに見応えを出してくれたのは、季節感を演出してくれた球根植物。春先のクロッカス、スイセンとパイモ、秋のタマスダレやコルチカムは花が少ない時期に彩りを与え、初夏のアイリス、夏のユリが華やぎを添えてくれました。病気や読みの甘さから一部枯れ込んだ部分もありましたが、日向と日陰それぞれの環境を活かした美しい庭を提案できました。

審査員講評

公園のエントランスにふさわしく、華やかさのある“のはら”でした。グラスや葉のテクスチャーの流れの中で、花が踊っているようにも感じられました。

特に日陰の庭は植物の選定がしっかりしていて、多様な植物が秋まで乱れず、花後の姿も美しく見せていました。日向の庭は、混みあって見える時季もありましたが、流れを持たせたデザインコンセプトが秋にはしっかり生きてきました。シードヘッドもきれいに残り、キラキラしたグラスも印象的でした。

全体に葉や花の色彩の対比が美しく計算されていて、光と風を感じさせてくれるステキな庭でした。



日陰 11月





日向 7月



日陰 7月



花鳥風月 命巡る草はら

Garden Designer | メイガーデンズ 柵山直之 (三重県)

作品のテーマ・創作意図

ガーデンの美しさは緑量や花の色目や形状だけで測れるものでなく、空や光や風や生きもの全ての関わり合い、生命の尊さを感じることでガーデンがより輝いて見えます。ガーデンに長く根付いて、地域に馴染む風景、生態系の一部になることを想定し、植えっ放しに耐えられる丈夫な品種を中心に、蜜源植物や、風や光の動きを反映しやすい植物を多く取り入れ、地味な在来種でも組合せや配置で奥行きある豊かな草はらの表現を目指します。



日向 7月

ルドベキア'ゴールドスターム'やヒオウギ、オミナエシなどの黄花が多数咲き、パワーあふれる夏の植栽。



日陰 7月

葉の形がさまざまなグラウンドカバーが茂る中、アジサイ'アナベル'が明るさを、ツルバギアが愛らしさをプラス。



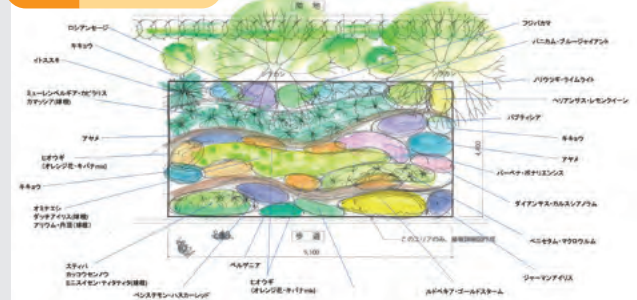
日向 2月



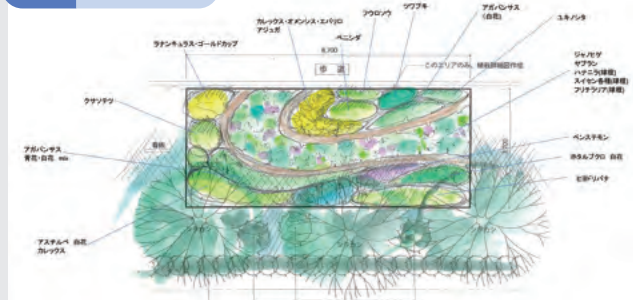
日陰 3月

応募時に提出されたデザイン図面

日向 北側区画



日陰 南側区画



主な植物リスト

●日向 北側区画

フジバカマ/パニカム'ブルージャイアント'/ノリウツギ'ライムライト'/ヘリアンサス'レモンクイーン'/パプティシア/キキョウ/アヤメ/バーベナ・ボナリエンシス/ダイアンサス・カルシアノラム/ベニセタム・マクロウルム/ジャーマンアイリス/ルドベキア'ゴールドスターム'/ヒオウギ(オレンジ花・キバナ mix)/ペンステモン'ハスカーレッド'/スティバ、カコウセンノウ/ミニスイセン・ティタティタ(球根)/オミナエシ/ダッチアイリス(球根)/アリウム'丹頂'(球根)/ミュレンベルギア・カピラリス/カマシヤ(球根)/イトススキ/ロシアンセージ

●日陰 南側区画

ラナンキュラス'ゴールドカップ'/カレックス・オメニス・エバリロ/アジュガ/ベニシダ/フウロソウ/ツワブキ/ユキノシタ/ジャノヒゲ/ヤブラン/ハナニラ(球根)/スイセン各種(球根)/フリチラリア(球根)/ペンステモン/ホタルブクロ/ヒヨドリバナ/アスチルベ/カレックス/アガパンサス(青花・白花 mix)/クサソテツ/ヤツデ/スミレ/セキショウ



日陰 4月



日向 5月



日陰 5月



日向 6月



日陰 6月



日向 7月



日陰 7月



Garden Designer

メイガーデンズ 柵山直之 (三重県)

三重県鈴鹿山脈の麓菰野町で自宅の庭をつくり、東海地区を中心に造園業として各種庭づくりに携わっています。大型施設などの造園設計・現場監督業務を経て、現在は個人邸を中心に作庭しています。本業の傍らガーデニング講座の講師やイベント企画運営、舞台美術や創作活動など幅広く活動しています。長野県松本市出身。

一年を振り返って

宿根草と球根による「イエロー&ブルー」のカラーコンビネーションを様々なパターンで年間通して計画通り表現することができました。開花が少ない時期はあったものの、途切れることなく何かしらの開花が見られました。また、蜜源や食草を意図的に取り入れたので、スマレに産卵するツマグロヒョウモンの幼虫が日陰の庭の黒葉スマレに何匹もあり、秋には成虫が飛んでいたので、タイトル通り命を巡らせることができました。

想像以上に生育旺盛で、イメージと異なる姿になったりしましたが、切り戻しや間引きなどメンテナンスで何とかカバー。品種ごとに、切り戻しをタイミングよく行うことで倒伏させず、開花を保ちながら株姿をコントロールできました。ほとんどの植物が、株が消えずに残っています。酷暑の夏でしたが、何年も先まで植えっぱなしでこのまま継続維持でき、生きものの住処にもなる、ロングライフ・ローメンテナ庭を提示できたと思います。

審査員講評

日向の庭は、草原の広々とした感じが伝わってきました。高さの違う植物を連ね、黄色の色あいにも強弱があって、見て楽しい華やかな庭になっていました。

日陰の庭は近くで見ると、流れのような小道の周りに色々な花が咲いています。春から初夏にかけての優しい白、黄色系の花と多様な表情をもつグラスが作り出す世界は圧巻でした。グラウンドカバーにしている葉の微細なテクスチャーやグラデーションも美しかったです。

ウィットに富んだ作り手のオリジナリティーを感じる庭でした。





日向 7月



日陰 7月

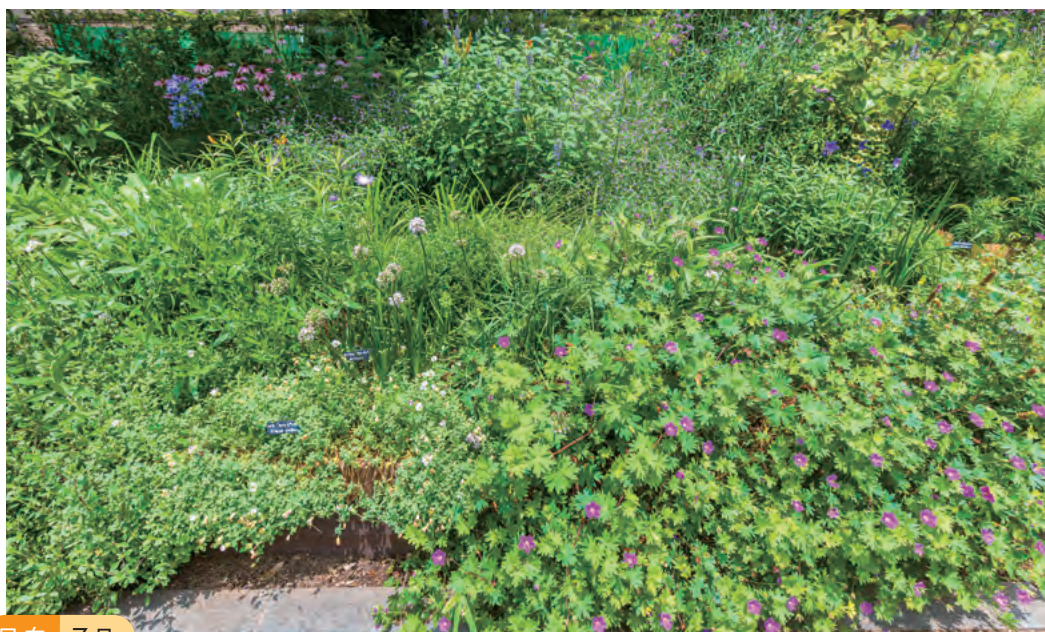
準グランプリ

草原は、やがて森へ還る。

Garden Designer | 吉野ひろき (京都府)

作品のテーマ・創作意図

森では、様々な木々が壮絶な生存競争を繰り広げています。しかしそれは草原もまた同じ。草原は生命力に溢れる草花たちの戦いの場です。そしてやがて、草原の中から樹木が芽生え、最終的には森へと遷移していきます。私は、草原から森へと還るこのはじまりの瞬間を、美しくもドラマティックに演出したいと思いました。ここは、森が好きなガーデンデザイナーが解釈し表現したペレニアルガーデンです。



日向 7月

たっぷりの日差しを受け、人の背丈を越すものや、花壇の枠をはみ出るほど旺盛に茂って迫力のある花壇風景に。

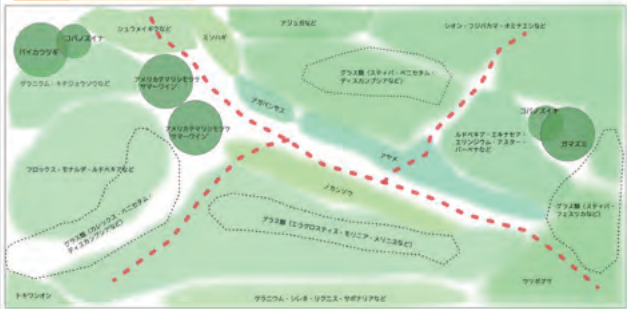


日陰 7月

中央部にアンジェリカ'エボニー'の花穂が上がり、白や淡いブルーなど楚々とした花が随所に咲いて、小さな変化を見つける楽しさもありました。

応募時に提出されたデザイン図面

日向 北側区画



日陰 南側区画



主な植物リスト

●日向 北側区画

グラス類: アオチカラシバ/エラグロスティス'スペクタビリス'/カレックス'フェニックスグリーン'/スティバ'テヌイッシマ'/ディスカンブシア'ゴールドタウ' など
球根類: コオニユリ/カノコユリ/スノーフレーク/ハナニラ (イフェイオン)'ジェシー'/原種系チューリップ'アルバコエルレアオクラータ'/クロッカス'ホワイトウェルパープル'/アリウム'カメレオン'/アリウム'グレースフルビューティー' など
宿根草: ノカンゾウ/アヤメ/ミソハギ/ウツボグサ/シュウメイギク/チョウジソウ/ワレモコウ/フジバカマ/ハゴロモフジバカマ/オミナエシ/ノコンギク'夕映え'/アスター'アポロ'/シオン'ジンダイ'/エキナセア'パープレア'/エキナセア'ロッキートップ'/ルドベキア'ヘンリーアイラーズ'/セントーレア'ニグラ'/オルレア (一年草) /ガウラ'クールブリーズ'/ベルシカリア'ブラックフィールド'/フロックス'フジヤマ' など
低木類: ガマズミ/バイカウツギ/コバノズイナ/テマリシモツケ など

●日陰 南側区画

グラス類: カレックス'ペンデュラ'/カレックス'テストセア'/シマカンスゲ/ワイルドオーツ/フウチソウ など
球根類: ヒアシンソイデス'ヒスパニカエクセルシオール'/シラー'シベリカ'アルパ'/フリチリア'パイモユリ'/フリチリア'エルウィシー'/カマシア'クシキー'/ゲラニウム'チュベロサム'/コリダリス'ソリダ'ベスエヴァンス' など
宿根草: キチジョウソウ/ヤブラン/ギボウシ/オカトラノオ/ホタルブクロ/イカリソウ/ミツバシモツケ/クリスマスローズ/シュウメイギク/チョウジソウ/ハゴロモフジバカマ/ベニシダ/ニシキシダ/クサソテツ/アスター'トワイライト'/アスター'リトルカーロウ'/ワイルドチャービル/サラシナショウマ (シミシフーガ)'ブルネット'/カラマツソウ (タリクトラム)'ヒューイットダブル'/モウズイカ (バーバスカム)'ビオレッタ'/ベンスデモン'ミスティカ' など
低木類: ナツハゼ/ノリウツギ/ムラサキシキブ/ヤツデ'スパイダーウェブ'/コバノズイナ など





日向 7月



日陰 7月



日向 8月



日陰 8月



日向 9月



日陰 9月



日向 10月



Garden Designer

吉野ひろき (京都府)

庭花 niwahana landscapes kyoto代表。植物が好き。森が好き。
「お庭の数だけ、大切な物語がある。」をキャッチフレーズに、心に響くどこか懐かしいナチュラルガーデンを、設計デザインから施工まで手がけています。また、庭づくりの傍らで、地域の小学校や寺院などで、森の授業や森づくりの指導などの活動もしています。

一年を振り返って

土中での空気や水の流れ、微生物や菌類の活性化を考え、環境づくりに力を入れたので、想定外のこともありましたが、乾燥や高温等による枯損等もなく初期段階から順調に育ちました。

共通テーマ“武蔵野のくさはら”の私の解釈は、平地ではなく山を背景に広がりさまざまな草花が風に揺れる草原でしたが、今回、自分のタイトルからも関連づけて“武蔵野の森”とも解釈。優しくてノスタルジックで、ジブリ的な世界観をどこかに感じる景色をイメージしました。大小の起伏をつけることで奥行と立体感を出し、その環境に応じた適地適草(木)の配植をしたため、作為的に造られた感が少ない、連続性のあるナチュラルな風景を演出できました。日本在来種を要所に入れつつ多種多様なプランツを組み合わせ、植物たちのドラマティックな「競争」と「協奏」を表現しました。色彩や形重視のデザインプランティングというより、物語を感じる風景ガーデンとして見てほしいと思います。

審査員講評

「武蔵野の“くさはら”というテーマに向き合う真摯な姿勢が伝わってきました。低木を植え、背景となるカシの木も利用し、限られた敷地で自然の景色をうまく表現していました。地形に起伏をもたせ、風の通り道も作り、「奥に何かあるのではないか」と草を分け入っていきたくするような雰囲気を感じました。赤い実・ワイルドオーツ・ミズヒキなどとの出会いが楽しい一方、花壇手前に小花を枝垂れさせするなど、遠景も含めてバランスがよく、立体的で透明感のある景観になっていました。

夏から秋にかけてやや繁りすぎ、地形のアンジュレーションなど細かな部分に目が届きにくくなる面もありましたが、「草原は、やがて森へ還る。」というタイトルに向き合った結果とも感じます。



日向 11月



日陰 11月



日向 7月



日陰 7月



feeling garden

～伝え感じる武蔵野の新しい風景づくり～

Garden Designer | 藤井宏海 (福岡県)

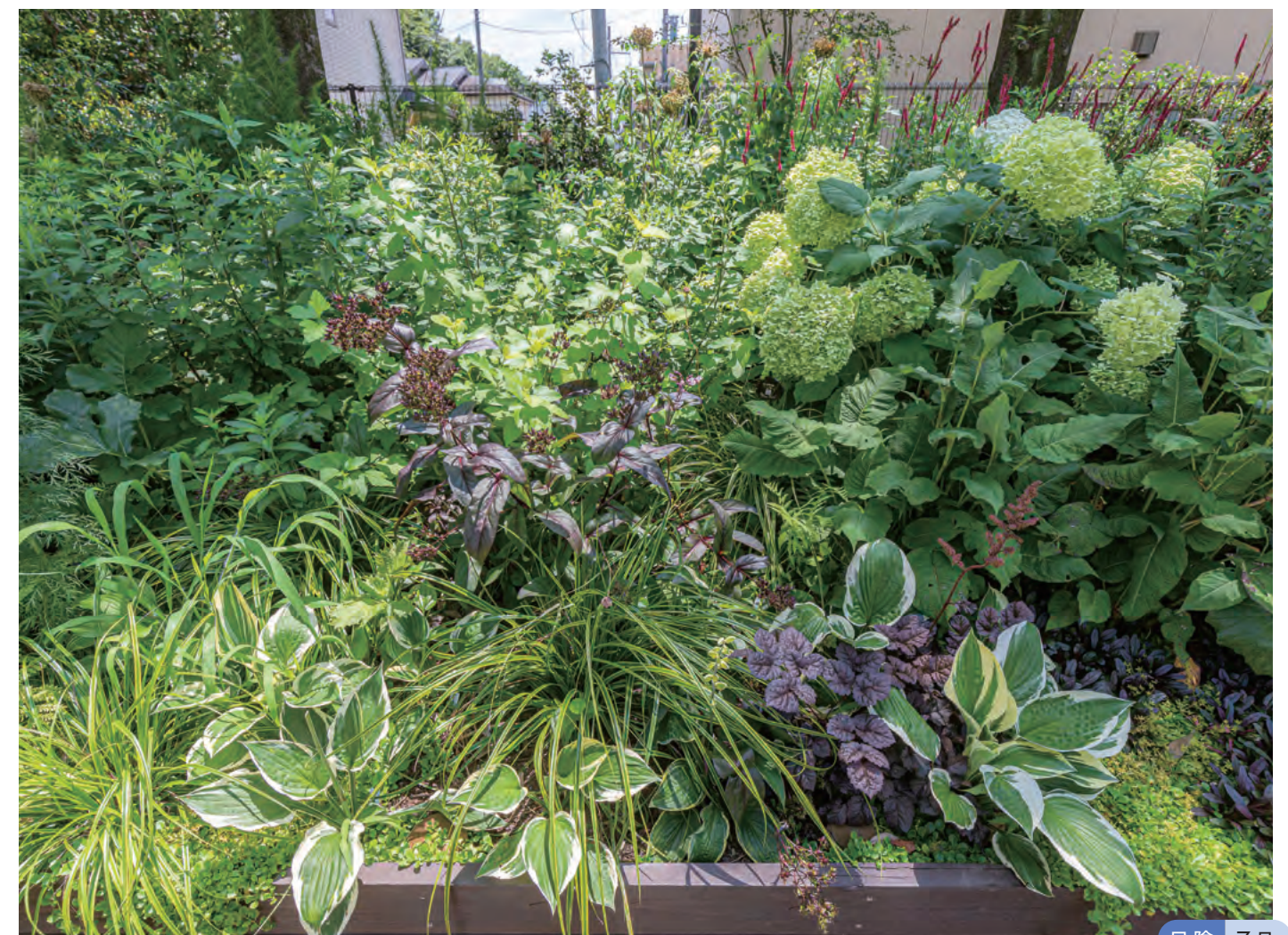
作品のテーマ・創作意図

人々の心に残る武蔵野の情景を骨格に、新たな要素を組み足して、これからの愛される武蔵野の風景を植物の魅力や武蔵野の風景を「伝え」「感じる」ことを軸に提案しました。武蔵野の草原を連想させるグラスをベースに、季節の流れの中で、さまざまな色や形の草花がガーデンを彩っていくような配置を心がけました。自然との距離が遠くなった現代で、このガーデンが少しでも自然と人が寄り添うきっかけになればと思っています。



日向 7月

花後のアリウムの球体が、あちこちで浮遊して、ユニークな景色が楽しめた夏。



日陰 7月

アジサイ'アナベル'の白い花がたっぷり咲き、ツワブキやアジュガなど、さまざまな色形のカラーリーフが瑞々しく調和。



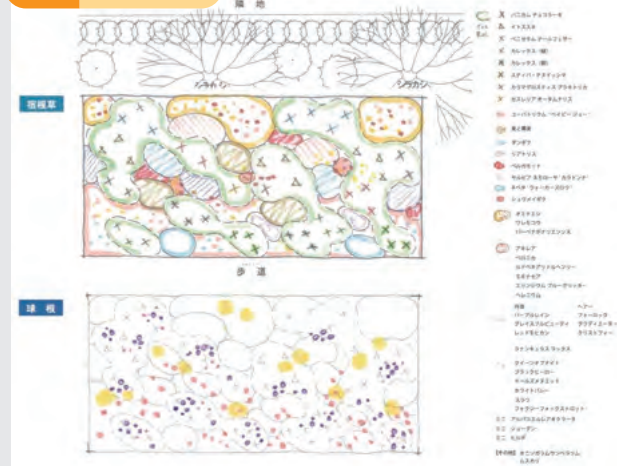
日陰 2月



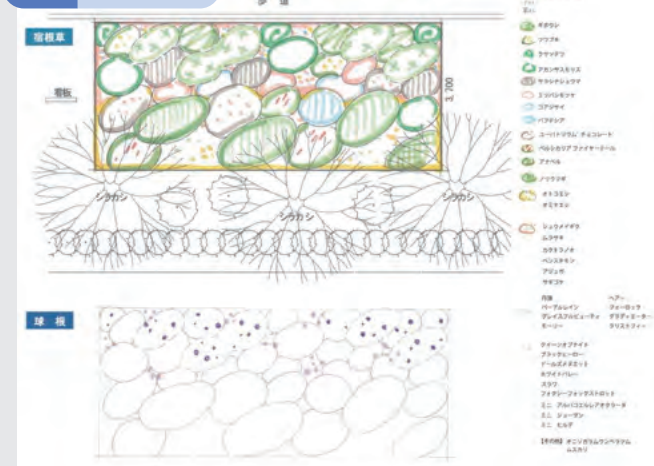
日向 3月

応募時に提出されたデザイン図面

日向 北側区画



日陰 南側区画



主な植物リスト

●日向 北側区画

イトススキ/カラマゴスチス/カレックス/ユーパトリウム 'ベビージョー'/ムギ/ソバ/ダンギク/ベルガモット/オミナエシ/ワレモコウ/ルドベキア 'ブラックジャックゴールド'/エキナセア/バーベナ・ボナリエンシス/アリウム/チューリップ

●日陰 南側区画

カレックス/ギボウシ/ツワブキ/クサソテツ/アカンサス・モリス/バプティシア/ユーパトリウム 'チョコレート'/ベルシカリア 'ファイヤーテール'/アジサイ 'アナベル'/オトコエシ/オミナエシ/カクトラノオ/ペンステモン/アリウム/チューリップ



日向 4月



日向 5月



日陰 5月



日向 6月



日陰 6月



日向 7月



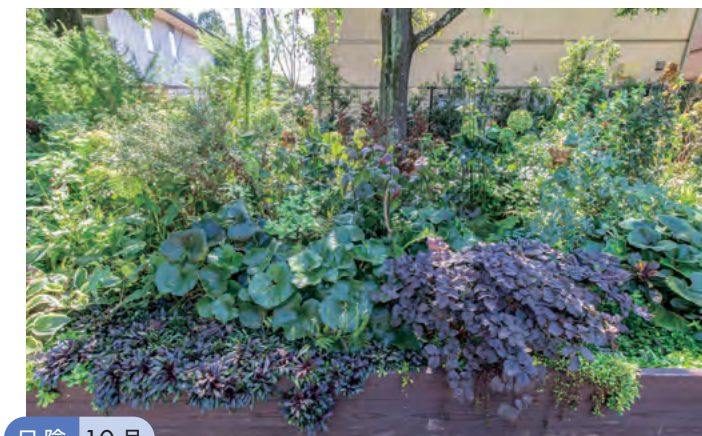
日陰 8月



日向 9月



日向 10月



日陰 10月



日向 11月



Garden Designer
藤井宏海 (福岡県)

西日本短期大学緑地環境学科を卒業。ランドスケープコンサルタントに入社し都市緑地の計画設計に従事。その後、フリーランスとなり「自然を楽しむ自然の魅力を伝える」ことをテーマに、ランドスケープやお庭の設計、宿根草を主体にまちに花と人の輪をひろげる「福岡市植物園ねづくプロジェクト」のスタッフとして活動する。

一年を振り返って

温暖化する都市環境に耐えられる在来種と、日本の草原・里山の雰囲気をもったポップな印象を与える植物を組み合わせました。春～初夏にかけてかわいらしかったガーデンが、夏～秋にかけてだんだん落ち着き侘びていくよう、四季を通して移ろうように計画しています。アスター‘ジンダイ’や麦・蕎麦などで地域らしさを出して、植物に興味のない方や子供たちにも興味を持って見てもらえました。虫や蝶などの生き物を呼ぶことができ、ガーデン内に生態系が生まれました。その反面、食害にあった植物がありましたが、真夏前に花をつけている株を含め切り戻したことで、株が大きなダメージを受けず秋まで宿根草の見栄えを保つことができ、三番花まで咲く種類もありました。とくに日陰側では、低木を骨格にしてソワブキやシダなどのオーナメンタルな宿根草を用いたことで、葉の形や色の重なりを表現できた上に、ローメンテナンスな管理ですみました。

審査員講評

季節の花がいつも咲いていて、多くの来園者を喜ばせてくれるすてきなガーデンでした。

くさはらにポップなテイストを入れるというアイデアも秀逸で、日向の庭はゴージャスな植物のかたまりが連なり、春のチューリップなどが来園者をワクワクさせました。秋には多様なグラスの穂も美しく、ススキとアスター‘ジンダイ’の取り合わせがステキでした。

日陰の庭は、グランドカバーも含め様々な色合いが混じりあい、光の明暗などデザインの狙いが良く伝わってきました。

1年を通じてポリューミーでエネルギー、色鮮やかな表情が印象的なガーデンでした。



日陰 11月



日向 7月



日陰 7月



武蔵野の“これから”の原風景

Garden Designer | 清水一史 (東京都)

作品のテーマ・創作意図

世界的に“Climate Change(気候変動)”が叫ばれ、日本でも夏の猛暑、雨不足による水ストレスが植物を苦しめました。農業技術である完熟した堆肥をはじめ有機資材を使い、微生物に富み団粒構造を持つ土壌を作ることからはじめ、これまで武蔵野の草原風景を担ってきた在来植物を中心にガーデンを構成します。都市の暮らしの中でこぼれ落ちてきた技術、植物でこれからの武蔵野の風景を模索していきます。



日向 7月

彫刻的な形の花を咲かせているフジアザミが道行く人の目を引き、山野草ガーデンの奥深い世界を披露。



日陰 7月

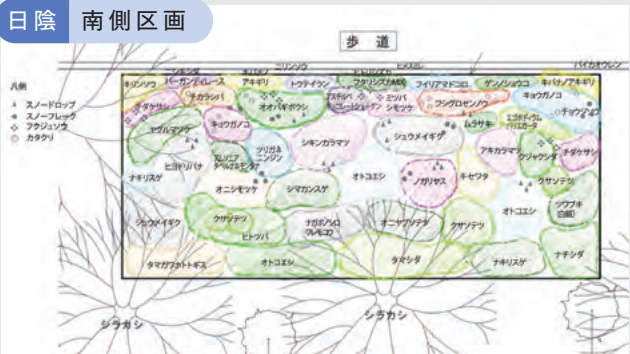
スカビオサやフシグロセンノウが低くこんもり茂る中、花穂を高く伸ばして見ごろを迎えたシキンカラマツが際立っています。

応募時に提出されたデザイン図面

日向 北側区画



日陰 南側区画



主な植物リスト

●日向 北側区画

ヤマハギ/ミソハギ/オミナエシ/ノガリヤス/チカラシバ/フジバカマ/オトコエシ/コマツナギ/ワレモコウ/シラヤマギク/カワミドリ/フジアザミ/ノダケ/ヒヨドリバナ/キセウタ/マツムシソウ/クララ/オカトラノオ/ヤマホタルブクロ/ツルボ/キキョウ/アサマフウロ/タカ/ハススキ/ミスカンサス' モーニングライト'/ミツバシモツケ/カタクリ/ムラサキ/カライトソウ/タムラソウ など

●日陰 南側区画

フクジュソウ/ヒトリシズカ/フタリシズカ/ツリガネニンジン/キバナノアキギリ/チダケサシ/シュウメイギク/クジャクシダ/ナチシダ/クサソテツ/ヒトツバ/ナキリスゲ/ゲンノショウコ/ナガボノシロワレモコウ/ヤグルマソウ/キョウガノコ/チョウジソウ/アキカラマツ/フシグロセンノウ/キリンソウ/エゴボディウム・バリエガータ/ツワブキ・アージュテルリウム' 浮雲錦' など



日陰 5月



日向 6月



日向 7月



日陰 7月



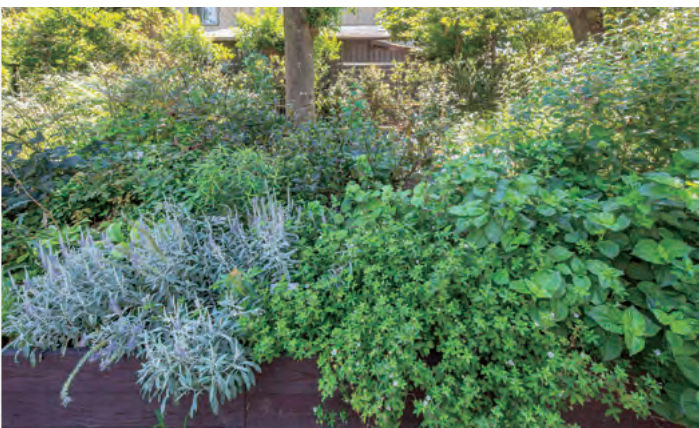
日向 8月



日陰 8月



日向 9月



日陰 9月



日向 10月



日陰 10月



日向 11月



日陰 11月



Garden Designer

清水一史 (東京都)

福井に生まれ、金沢で大学時代を過ごす。民間の不動産会社で都市再開発に伴う外構や公園、道路の整備に従事。三鷹市の鴨志田農園で完熟堆肥作りを学び、暮らしの中で出る生ごみから堆肥をつくること、土づくりや野菜栽培、植栽設計など屋外空間を彩り、暮らしていく術を日々実践中。

一年を振り返って

武蔵野の“くさはら”の昔の風景を取り入れ、そこに思いを馳せることで、過去と未来をつなぐ新たな視点を提案しました。都市緑化では生物多様性を意識し、都の「在来種選定ガイドライン」に基づいた植栽が数多く計画されていますが、草原のような景観はあまり重視されていないのが現状です。私の理想は、風景の中で目立つ存在ではなく、背景として人々や生き物が共存できる空間を作ることと、それらに愛着を持ちともに語らう人々が増えること。今回、日本の野草の魅力を語る場を設けられたことは、ひとつの成果だと捉えています。

コンセプトを重視して初めて育てる植物を多数導入したため、配置や密度の調整が難しく、イメージ通りの景観を作ることができなかった場所も多くありましたが、メンテナンスは月1回と、計画通りにローメンテナンスで管理できました。これからも東京の風景を模索し続けたいです。

✓ 審査員講評

日本の在来種を大胆に使うって風通しよく配置していました。多様な葉の形やテクスチャーの違いが面白く、じっくり見ていたくなりました。

草(くさ)感が強いので、花壇とは思われないかも…と心配してしまうくらいでしたが、緑から青色まで一年を通じて植物の葉の表情の変化が美しかったです。その辺の草っぱらだって、見ようによっては美しい!ということ気付かせてくれたともいえます。

メンテナンスの回数を少なくする努力も見られ、日本における宿根草ガーデンの一つのスタイルとして、可能性を感じる庭でした。



TOKYO PARK GARDEN AWARD

第1回 @ 代々木公園

第2回 @ 神代植物公園

第3回 @ 砦公園

詳細はこちら



第2回 東京パークガーデンアワード 神代植物公園
2023年9月-2024年11月 コンテスト作品集

2025年2月
発行 公益財団法人 東京都公園協会



主催：東京都

●この事業に関するお問合せ

事務局：東京都公園協会 公園事業部 事業開発課
メール：tokyo-pga.sm@tokyo-park.or.jp


 緑と水 まちを豊かに 一尽きない可能性を追い求めますー
 公益財団法人 東京都公園協会
 Tokyo Metropolitan Park Association